

会 告

第94回講演大会見学会・懇親会開催のお知らせ

本会は第94回秋季講演大会を昭和52年10月2日(日)、3日(月)、4日(火)の3日間、広島大学で開催いたしますが、これを機会に10月2日懇親会、3日婦人見学会、5日(水)見学会を下記により開催いたしますので、奮つてご参加下さいますようお願いいたします。なお、講演大会の詳細ならびにジュニアパーティについては追つてお知らせいたします。

記

1. 見学会の申込について

期 日 昭和52年10月5日(水)4班
会 費 1, 2, 3班 2000円(含昼食費), 4班 2500円(含昼食費)
申込締切 昭和52年8月20日(土)
見学会参加申し込み上の注意

1. 見学会申し込みは本会会員に限ります。代理人の見学はお断わりいたします。
2. 申し込みは1人1班とします。申し込み多数の場合は抽選により決定いたしますので希望順位を記入して下さい。
3. 各班は申込と同時に見学費をお払込み下さい。
4. 見学希望数が少人数の場合および見学先の突然の事情によりその班の見学中止あるいは行程を変更することがありますので、あらかじめご承知おき下さい。
5. 見学会が中止となった場合は、会費を返金いたします。
ただし、お申し込みの取消は9月6日までとし、以後は取消しの申し出があつても返金いたしません。
6. 各班とも工場内での写真撮影は禁止いたします。また見学コースを外れた行動を禁じます。
7. 見学費の領収書は見学班が決定後、見学券とつしよに送付いたします。

2. 懇親会の申し込みについて

講演大会に際し全国各地からお集りになる会員各位の親睦の場として、下記のごとく懇親会を開催いたします。会費などについてもより多くの方々にお気軽にご参加いただけるようにいたしました。

また、この機会に会員各位ご夫人同伴でご参加いただき、より明るい雰囲気のご催しとしたいと思いますので、多数ご参加下さるようお願い申し上げます。

期 日 昭和52年10月2日(日) 18:00~20:00
会 場 広島グランドホテル(広島市上八丁堀4番4号) TEL. 0822-27-1313
会 費 6,000円(同伴のご夫人はご招待いたします)
申込締切 昭和52年9月5日(月)
参加券 領収証とともに申込締切後お送りいたします。

3. 婦人見学会について

期 日 昭和52年10月3日(月)
コ ー ス 原爆ドーム、岩国、宮島
会 費 5,000円(昼食代、拝観料、船賃含む)
申込締切 昭和52年8月20日(土)
参加券 領収証とともに申込締切後お送りいたします。

4. 申込方法

上記「申し込み上の注意」をご覧のうえ、別添申込用紙に必要事項を記入し、会費(現金書留)を添えお申し込み下さい。会費の添付されないお申し込み、銀行振込みならびに郵便振替による申し込みは受け付けいたしません。

5. 申込先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館
(社) 日本鉄鋼協会 講演大会係 TEL (03) 279-6021

- 注) 1. 見学会、懇親会申込書は本誌会告 N133 ページ(クリーム頁末)に掲載いたしております。
2. 講演大会中の宿泊については N125 ページに案内しております。

見 学 会 表

工場・施設見学 10月5日(水), 婦人コース 10月3日(月)

班別 (定員)	見 学 場 所	所 在 地	見 学 内 容	見 学 時 間	集 合 場 所・出 発 時 刻 解 散 場 所・解 散 時 刻	備 考
1 (50名)	三菱重工業株式会社 広島造船所 *東洋工業株式会社 *株式会社日本製鋼所 広島製作所	広島市観音新町 4-6-22 広島県安芸郡府中町 広島市船越町入川 2186	鑄造工場, サンシャイン計画 プレス工場, 車輛組立工場 機械工場, 組立工場, 化工機 工場	9:30~11:20 12:00~14:30 (昼食) 14:40~16:20	集合 (9:00) 広島駅(北口) 定期 観光バス発着場 解散 (16:50) 広島駅(南口)一在来 線	①会費: 2000円 (昼食代 含む) ②貸切バス (広電) 利用 ③昼食は東洋工業
2 (50名)	日新製鋼株式会社 呉製鉄所 工業技術院 中国工業技術試験所 株式会社三豊製作所 広島工場	呉市昭和通り 7-1 呉市広町 15,000 呉市広町 730-3	製鉄工場, 製鋼工場, 熱延工 場 瀬戸内海大型水理模型, 金属 加工および防錆技術研究所 マイクログメーター機械加工, 組立加工工場	9:30~12:10 (昼食) 12:40~14:10 14:20~15:20	集合 (9:10) 呉駅前広場 解散 (15:50) 呉駅前広場	①会費: 2000円 (昼食代 含む) ②貸切バス (広電) 利用 ③昼食は日新製鋼
3 (50名)	新日本製鉄株式会社 光製鉄所 東洋鋼板株式会社 下松工場 出光興産株式会社 徳山製油所	光市大字島田 3434 下松市東豊井 徳山市新宮町1番1 号	第2線材工場, 電縫管工場 冷延工場 石油精製工場	9:40~11:40 12:10~14:10 (昼食) 14:30~15:30	集合 (9:00) 徳山駅新幹線出札口 解散 (15:40) 徳山駅前 (新幹線口)	①会費: 2000円 (昼食代 含む) ②貸切バス (防長) 利用 ③昼食は東洋鋼板
4 (100名)	日本鋼管株式会社 福山製鉄所 川崎製鉄株式会社 水島製鉄所	福山市鋼管町1 倉敷市水島川崎通り	笠岡地区, 原料ヤード, 高炉 (經由) 第2熱延工場 原料ヤード, 高炉 (經由) 第 2厚板工場	9:30~12:30 (昼食) 13:40~16:00	集合 (9:10) 福山駅出札口 解散 (16:50) 新倉敷駅前	①会費: 2500円 (昼食代 含む) ②貸切バス (広電) 利用 ③昼食は日本鋼管
婦 人 コ ー ス (30名)	原爆ドーム 岩 国 宮 島	広島市 山口県岩国市 広島県佐伯郡	原爆ドーム 錦帯橋 厳島神社, 宝物館	9:20~9:30 11:20~13:00 (昼食) 14:40~15:40	集合 (9:00) 広島駅(北口) 定期 観光バス発着場 解散 (17:00) 広島駅前 (北口)	①会費: 5000円 (昼食代 含む) ②貸切バス (広電) 利用 ③昼食は岩国

- (注) 1. 申込締切りは 8月20日(土)
2. 見学班中*印は同業者の見学お断りの工場です。
3. 各班 (個人コースを除く)とも工場内では、写真撮影はお断りになっております。
4. 各班の会費には昼食代が含まれております。
5. 婦人コースの会費には、昼食代 2000 円のほか昇降料, 船賃が含まれております。
6. 各班の定員は両学会の合計とし、定員に達しないコースについては中止することがあります。

昭和 53 年春季 (第 95 回) 講演大会討論会 討論講演募集のお知らせ

昭和 53 年春季 (第 95 回) 講演大会に開催されます討論会講演を下記により募集いたしますので奮つてご応募下さるようご案内いたします。

1. 討論会テーマ

1) コークスの熱間性状 座長 館 充

一連の高炉解体調査と基礎研究とによつて、コークスの熱間性状について少くない知見がえられてはいますが、要請されている水準に達しているとはいえません、そこで反応性と反性による劣化、レースウェイを含む高温域における熱的化學的変化とこれによる劣化・アルカリ・アタックなどの諸現象、これらとコークスのミクロ的・マクロ的構造との関係、可能なら高炉操業との関係などについてコークス製造側、高炉製鉄側から広く研究成果を発表していただき、この問題についての認証を深めたいと考えます。

2) 溶鉄の予備処理 座長 川合 保治, 神原健二郎

溶鉄の予備処理、とくに炉外脱硫に関しては、以前から各種の方法が実施されてきているが、最近、極低硫鋼の製造、脱硫剤の選択、環境問題などに関連し、再検討されつつある。また脱磷の問題なども含めて、予備処理というよりも予備精錬と呼ぶべき方向が指向されている。

本討論会では、これらの問題について基礎的研究から実際操業の技術的問題まで含めて討論したい。積極的に応募されることを期待します。

3) 圧延材の品質計測 座長 吉谷 豊

日本鉄鋼協会は、今後の鉄鋼材の品質向上の立場から on-line でこれまで寸法計測はなされて来ましたが、今後材質面での均質化をはかるための材質の計測の重要性から、上記の討論会を計画することになりました。

これまでのサンプルを採取し、実験室での試験は、時間もかかり代表性という面でも問題があり、データからの action が遅れることにもなり、大型化する鋼材に対し、均一性を保証して行くためには、なんらかの on-line の材質計測法の開発が必要であります。

鋼材の磁氣的性質から材質を判定する方式は、以前から研究されていますが、まだ工程中で活用する段階にはなっていません。

これらの開発には、さまざまな approach が可能と思われるので、関心のある方々の講演および参画を希望します。

4) 準安定オーステナイトステンレス鋼における TRIP 現象に関連した諸問題 座長 田村 今男

準安定オーステナイトステンレス鋼は応力または加工によつてマルテンサイト変態を誘発し、そのため耐力が低下したり、疲労強度や伸線などの加工性も低下するといわれている。反面、マルテンサイト変態誘起塑性 (TRIP) をうまく利用すれば深しぼり性などの成形性が顕著に改善される。これらに関する諸問題について広い視野から突込んだ討論を行ないたい。変態誘発の基礎、合金元素、加工法、加工温度、加工度などの影響、加工硬化、深しぼり成形性、低温圧延などによる性質改善、などに関する新しい多数の発表を期待します。

5) 鋼材溶接熱影響部 (HAZ) の材質劣化の諸問題 座長 金沢 正午

鉄鋼材料の溶接熱影響部 (HAZ) は種々の熱サイクルや応力サイクルを受け母材に比べ材質が著しく劣化する場合である。例えば、HAZ ボンド部の結晶粒粗大化によるじん性低下、変態点以下に加熱された部分 (広義の HAZ) のぜい化、SR 後のぜい化、応力腐食割れ、腐食疲労等が良く知られている。そこでこれらの問題点提起と溶接構造物の安全性確保のために必要な溶接部性能の評価法、対策について討論を期待する。

2. 申込締切日 昭和 52 年 8 月 8 日 (月)

3. 申込方法 「鉄と鋼」第 8 号に綴込みます申込用紙に必要事項ならびに申込書裏面に 400 字程度の講演のアブストラクトをお書きのうえお申し込み下さい。

4. 討論講演の採否 討論講演としての採否は、前記ご提出のアブストラクトにより検討のうえ決めさせていただきますので、あらかじめお含みおき下さい。

5. 講演前刷 昭和 52 年 11 月 7 日 (月)

原稿締切日 討論講演として採用された方は、本会所定のオフセット原稿用紙 4 枚以内 (表, 図, 写真を含め 1 頁 6,700 字) に黒インクまたは墨をもちいて楷書で明りようにお書きのうえ、ご提出下さい。

6. 講演テーマ・講演者の発表 「鉄と鋼」第 64 年第 1 号 (昭和 53 年 1 月号) にて発表いたします。

7. 講演内容の発表 「鉄と鋼」第 63 年第 2 号 (2 月号) に講演内容を掲載いたします。

8. 討論質問の公募締切日 昭和 53 年 2 月末日

前記 2 号掲載の講演内容をご覧のうえ、質問対象講演を明記のうえ、本会編集課宛ご送付下さるようお願いいたします。

申込先: 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021 (代)

第 46・47 回西山記念技術講座開催のお知らせ

—非破壊検査技術の進歩—

主催 日本鉄鋼協会

第 46・47 回西山記念技術講座を下記のとおり開催いたしますので多数ご来聴下さいませようご案内いたします。

I. 期 日 第 46 回 東京 昭和 52 年 8 月 10 日(水), 11 日(木)

農協ホール (千代田区大手町 1-8-3 農協ビル 9 階 TEL 03-279-0311)

第 47 回 名古屋 昭和 52 年 9 月上旬 (会場未定)

II. 演題ならびに講師

第 1 日	9:30~11:00	非破壊検査技術の基本的諸問題	日本鋼管本社	中 沢 尚 次
	11:10~12:40	厚板・薄板の非破壊検査	日本鋼管本社	松 村 裕
	13:40~15:10	ビレット, 線材の非破壊検査	大同特殊鋼中央研究所	渡 辺 一 雄
	15:20~16:50	鋼管の非破壊検査	住友金属工業中央技術研究所	白 岩 俊 男
第 2 日	10:00~11:30	A E 技術とその応用	東京大学宇宙航空研究所	岸 輝 雄
	12:30 14:00	材質の非破壊試験	新日本製鉄製品技術研究所	磯 野 英 二
	14:10~15:40	溶接構造物の非破壊検査	石川島播磨重工業技術研究所	岸 上 守 孝

III. 講演内容

1. 非破壊検査技術の基本的諸問題 日本鋼管(株) 中 沢 尚 次

非破壊検査は、今や品質保証上不可欠の手段となつている。しかし材料の欠陥を物理的な特性値で推定しようとする方法なので、欠陥と物性値が必ずしも対応をしないという基本的な問題点をかかえている。

ここで、RT・UT・MT はなどの各種探傷法の現状と最近の動向を概観し、技術開発・設備開発の面から適用範囲の拡大や自動化の問題を、また信頼性向上の面から規格化・標準化・技術認定制度などについて論及する。

2. 厚板, 薄板の非破壊検査 日本鋼管(株) 松 村 裕

高靱性, 高張力または薄板においては特に加工性が要求されるなど高級鋼板が増加している。これに関連し、内質欠陥に対する品質保証・品質管理の手段としての非破壊検査, 特に超音波探傷が重要視され、最近では自動探傷装置も活用されている。一方、ストリップミルで圧延される鋼板についてはラインスピードの高速化とも対応し、表面キズ自動探傷装置が開発され、一部使用されている。

これら非破壊検査の原理, 現状と問題点などについて述べる。

3. ビレット, 線材の非破壊検査 大同特殊鋼(株) 渡 辺 一 雄

線材の生産工程における、ビレットの検査および熱間圧延中の検査について、特に下記の自動検査機器を中心に、検査機器の進歩, 機器の方式と原理, 現場適用条件を考慮した機器の開発過程, 現場における使用例と問題点について述べる。

i) ビレット蛍光磁探の検出とマーキングの自動化, ii) 熱間渦流探傷器, iii) 光学的直径測定器

4. 鋼管の非破壊検査 住友金属工業(株) 白 岩 俊 男

鋼管は最もはやく自動探傷の適用された分野であり、規格も整備されている。対象品種として、鍛造鋼管, 継目無管, ERW管, SAW管, 鍛接管があり、これ等の欠陥, 探傷法, 規格等について述べる。探傷法は自動探傷を中心として、X線, 超音波, 渦流, 磁気, 浸透を含む。用途別では原子力用, 化学工業用, ボイラー用, OCTG, 一般配管用等が含まれる。

5. AE 技術とその応用 東京大学 岸 輝 雄

新しい材料評価法として発展しつつある AE 法は、非破壊検査および材料研究の有力な手段となりつつある。本講演では、AE の発生機構からその材料特性, そして非破壊検査法としての応用に至る経緯を、材料の立場から概観しようとするものである。

1. 材料評価法として AE 2. AE の発生機構 3. 塑性変形に伴う AE と Kaiser 効果

4. き裂進展に伴う AE と破壊力学 5. 構造物の安全監視への応用と問題点

6. 材質の非破壊試験 新日本製鉄(株) 磯 野 英 二

非破壊検査は本来、材料中に存在、発生した欠陥を検出することを目的として発達してきたものであるが、現場においては他に、異材混入や熱処理の適否の判別等を、迅速、簡便に行なう必要がしばしば発生することもあつてこれを非破壊的に行なう技術も検討されつつある。そこで金属組織に関連した材質判別の問題を中心に、これら技術の現状を、超音波的方法と電気・磁気的方法に大別して記述する。

7. 溶接構造物の非破壊検査 石川島播磨重工業(株) 岸 上 守 孝

溶接構造物は各々の使用目的及び使用条件によつて、その溶接部に要求される品質・性能は異なる。しかし非破壊試験が要求される大部分の構造物では、溶接部は母材と同等以上であることが要求されている。本講座では溶接部の各種性能に悪影響を与える溶接欠陥の非破壊試験法を紹介し、構造物ごとに、各々が規格に基づいてどのように検査され、採否が行なわれているかについて紹介する。

IV. 聴講無料 (事前の申込みは必要ありません)

V. テキスト代 3000 円

VI. 問合せ先 日本鉄鋼協会編集課 〒100 千代田区大手町 1-9-4 TEL 03-279-6021

日 本 鉄 鋼 協 会 役 員

さる、4月5日開催の第62回通常総会において理事、監事、および評議員の選挙が行なわれました結果、次のごとく選任されましたのでお知らせいたします

理事候補者 (任期2年15名)

安藤 卓雄	池田 稔	河西 健一	加藤 健三	川合 保治
草川 隆次	鈴木 正敏	館 充	田畑新太郎	豊田 茂
中村 正久	藤原 達雄	不破 祐	松代綾三郎	松原 嘉市

監事候補者 (任期2年1名)

木寺 淳

評議員候補者 (任期2年126名)

秋田 正弥	浅田 千秋	阿部 秀夫	荒木 透	有村 康男
安生 浩	池上 平治	池島 俊雄	池田 正	石原 重利
石原 幸男	伊藤 隆吉	今井 光雄	今井勇之進	磐城 恒隆
岩村 英郎	打浪 吉朝	大石 康夫	大竹 正	大谷南海男
大中 都四郎	大矢根大器治	萩野 和巳	小田 助男	小田 尚輝
小沼 敬祐	小野 達郎	桂 寛一郎	加藤 栄一	角野 尚徳
金子 信男	金尾 正雄	神居 詮正	河島 喜好	菊池 浩介
岸田 寿夫	木村 利秋	木村 宏	清川 正二	熊田健三郎
桑山 則男	小出 秋彦	河野 典夫	五弓 勇雄	小林 卓郎
小松 康	小南 曠	小柳 明	佐野 幸吉	沢 繁樹
沢村 宏	三本木貢治	塩沢 正一	柴山 武雄	柴山 幸雄
島村 哲夫	清水 正博	白松 爾郎	進藤 貞和	真藤 恒一
末光 秀雄	杉沢 英男	杉之原幸夫	鈴木 禎一	須藤 一
住友 元夫	関 文男	相馬 胤和	外島 健吉	染野 壇男
高瀬 孝夫	高梨 省吾	高橋 孝吉	高橋 忠義	高畑 幸男
高村 仁一	多賀谷正義	武井 英雄	竹内 秀夫	田中 実
谷川 正夫	津田 鉄夫	津田 信二	堤 信久	津谷 和男
都留 松男	洞沢 博雄	戸崎 誠喜	鳥越 能衛	中川 龍一
中島 長久	野田 郁也	橋浦 広吉	長谷川正男	長谷川正義
蜂谷 茂雄	平井 達三	平世 将一	平田 龍馬	久松 敬弘
藤井 浩一	藤田 利夫	細木 繁郎	松岡 正雄	松下 長久
松田 耕平	三井田逸朗	宮内重次郎	村上陽太郎	守川喜久雄
門間 改三	八木貞之助	八木 靖浩	矢沢弥三郎	矢野 巖
山岡 武	山下 伸六	山田 浩蔵	山田良之助	山本 信公
横山金三郎	吉井 周雄	吉崎 鴻造	吉田 浩	渡辺 省三
綿森 力				

特殊精錬法文献集の有償頒布について

鉄鋼基礎共同研究会、特殊精錬部会の一つである第6分科会ではESRにとどまらず、ひろく特殊精錬すなわち取鋼精錬や特殊溶解に関する情報の収集を担当しております。このような情報活動の成果をひろく関係者の参考にしていただくため、ESR法に関しては、すでにESR文献集第1集、第2集としてその成果を刊行して参りましたが、特殊精錬法に関してもESRの場合に準じて調査をおこない、その成果をここに特殊精錬法文献集第1集として刊行することになりました。

対象とした特殊精錬法は、たんなる脱ガス法、スラグ処理法などを除いた溶鋼の取鋼精錬法(VOD, AOD, ASEA-SKF法など)および特殊溶解法(VIM, VAR, EBM, EBR, PAM, PAR法など)であり、各プロセスの設備、操業技術、応用技術ならびに基礎研究結果などを網羅しております。本文献集第1集は主として1960年以降の国際会議、シンポジウム、学協会誌および専門誌に発表された論文ならびに資料について、図、表、写真などにより内容を分類し、雑誌別、プロセス別に整理編集してあります。なお本文献集に集録しました件数は欧文579件、和文195件の合計774件であります。本文献集を広く皆様方に御利用いただくため下記要領で頒布することになりましたので、ここに会員の皆様にお知らせ致します。

記

1. 頒布価格 2,000 円
2. 申込方法 書名、部数、送付先を明記のうえ代金を添えて現金書留にてお申込み下さい。
3. 申込先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階
日本鉄鋼協会技術部 山本由己 Tel. 03-279-6021

鉄鋼基礎共同研究会，特殊精錬部会主催 「ESR に関するシンポジウム」御案内

特殊精錬部会は昭和 49 年 3 月より ESR に関する基礎共同研究を行つて参りましたが，本年は 4 年目になりますので，研究をほぼ終了し，その成果の主なるものを広く公開発表し，各方面よりの御批判を仰ぐため下記の如くシンポジウムを開催する次第であります。

1. 日 時 昭和 52 年 9 月 14 日 (水) 9:30~17:20

2. 場 所 新丸ビル地下会議室

3. プログラム

- 9:30~10:40 部会，分科会活動状況報告
後藤部会長
井上第 1 分科会主査 相山第 2 分科会主査
郡司第 3 分科会主査 荻野第 4 分科会主査
小林第 5 分科会主査 成田第 6 分科会主査
- 10:40~12:10 ESR に関与する物質の物理化学的研究 座長 後 蔵 和 弘
1. ESR スラッグの電気伝導度 (30分)
大阪大学工学部冶金学科 荻野 和己，原 茂太
2. ESR 用スラッグの蒸発現象 (30分)
早稲田大学理工学部金属工学科 加蔵 栄一，塩川 隆
〃 (現三井物産) 山崎 敬一
3. ESR における S の挙動 (30分)
名古屋工業技術試験所 加蔵 誠
名古屋大学工学部金属工学科 井上 道雄
〃 (現ヤマハ発動機) 長谷川 清
- 12:10~13:10 昼 食 休 憩
- 13:10~14:10 ESW に関する研究 座長 小 林 卓 郎
4. ESW の冶金友応 (30分)
川崎製鉄技術研究所溶接研究室 中野昭三郎
東北大学工学部金属加工学科 桑名 武
5. エレクトロスラッグ溶接現象 (30分)
大阪大学工学部溶接工学科 仲田 周次
神戸製鋼所藤沢工場開発部 渡辺 俊彦
- 14:10~15:30 スラッグ，メタルプールに関する研究 座長 井 上 道 雄
6. ESR 溶解条件とメタルプール深さに関する一考察 (20分)
大平洋金属富山工場 佐蔵祐一郎，松倉 清，塚本 栄紀
7. 小型 ESR 炉におけるスラッグおよびメタルプールの温度分布 (30分)
川崎製鉄技術研究所製鋼研究室 小口 征男，江島 彬男
〃 深山 三郎，且部祐二郎
8. 交流および直流 ESR 炉のスラッグ・メタルプールの温度，電位測定と発熱量 (30分)
東京工業大学工学部金属工学科 川上 正博
〃 (現ベネズエラ国立研究所) 永田 和宏
日本鋼管技術研究所 宮下 芳雄，(現本社) 坂田 直起
〃 (現福山製鉄所) 山村 稔
東京工業大学工学部金属工学科 後藤 和弘
- 15:30~15:50 休 憩
- 15:50~17:20 凝固および欠陥に関する研究 座長 郡 司 好 喜
9. ESR インゴットの凝固過程の数学モデルによる解析 (30分)
東京大学工学部金属工学科 梅田 高照
10. 大型スラブ用 ESR 鋼塊におけるマクロ偏析線とその防止対策について (20分)
新日本製鉄八幡技術研究所 大河平和男
11. 大型 ESR の鋼塊表面肌と操業因子について (20分)
日本製鋼所室蘭製作所 岩波 義幸，舟崎 光則
12. ESR 鋼塊におけるスラッグ巻込みと異常組織の成因 (20分)
日立製作所日立研究所 飯島 史郎，近蔵 保夫
〃 勝田工場 花田 繁二郎

中国四国支部

学術講演会(湯川記念講演)開催ご案内

当支部では毎年7月に支部講演大会を開催しておりますが、今年度は10月に当地区で全国大会が開かれることになりましたので、支部講演大会にかえて、下記により学術講演会を開催することにいたしました。

つきましては、折角の機会でございますので関係者多数ご聴講下さいますようご案内申し上げます。

なお、会場準備の都合などもございますので、聴講ご希望の方は所定の申込書により、7月10日までに当支部宛お申込み下さい。

日時：昭和52年7月21日(木) 10:30～15:20

場所：広島市東千田町「広島大学理学部2号館6階646号室」

(広島駅前(在来線)より宇品行きバスまたは電車にご乗車の上広大前または日赤前で下車して下さい。所要時間約20分)

演題と講師

「表面処理鋼板の現状と今後の問題点」
(10:30～12:30)

新日本製鉄(株)八幡製鉄所

技術研究室 専門副部長 蒲田 稔氏

—講演要旨—

現在表面処理鋼板は数種のもの製造販売されているが、これはその特性に応じて各種用途に使分けられている。

これら表面処理鋼板の製造方法、主要特性、用途について簡単に紹介を行うと共に今後の問題について述べる。

「耐熱鋼・耐熱合金の研究と開発の動向」
(13:20～15:20)

東京工業大学教授 工博 田中良 平氏

—講演要旨—

主として下記の話題について最近の動向を紹介したい。

1. 高温の酸化と腐食並びにその防止対策
2. 高温構造設計における許容応力
3. 高温強化機構
4. 合金設計
5. いわゆる原子力製鉄技術の研究開発における耐熱合金の役割と要求される性質、とくに不純ヘリウムのような低酸化ポテンシャル雰囲気中での合金の腐食と強度特性

第60回塑性加工シンポジウム

主 題 プレス成形における型かじりと型摩耗

日 時 昭和52年9月27日(火) 9:30～17:00

場 所 光陽社ビル2階 荒川区東日暮里 5-48-5

1. 型かじり、型摩耗現象と潤滑 9:30～10:10

理研 曾田 範宗

2. 型かじり発生機構と現象 10:10～10:50

理研 宮内 邦雄
新日鉄 戸来 稔雄

3. 型かじりと成形条件 10:50～11:30

日産 古林 忠

4. 耐型かじり性と板材料 11:30～12:10

住金 須藤 忠三

5. 型かじり、型摩耗と型材料 13:10～13:50

大和久重雄

6. 型かじり、型摩耗と潤滑剤 13:50～14:30

出光興産 広瀬 敏光

7. 抜型における型摩耗と焼付 14:30～15:10

東大 前田 禎三

休 憩

- 討論及びパネルディスカッション 15:30～17:00

司会 理研 吉田 清太

講演大会宿泊ご案内

講演大会期間中の宿泊について、下記の通り日本交通公社で斡旋することになりましたので、ご希望者はお申込み下さい。

宿泊料金

- (1) 日本旅館

A. 5500円(1泊2食, 税, サービス料込み, 相部屋)

- (2) ビジネスホテル

B. 4500円(シングル, 税, サービス料込み, 食事なし)

C. 7000円(ツイン, 税, サービス料込み, 食事なし, 2人で)

- (3) ホテル

D. 9,500円(シングル, 税, サービス料込み, 食事なし)

E. 12,000円(ツイン, 税, サービス料込み, 食事なし, 2人で)

申込方法

別記申込書式(会告N15ページ)により申込金を添えて、お申込み下さい。(申込書1枚につき1人に限ります)

・グループで同一旅館、ホテルに宿泊を希望される方はその旨を備考欄にご記入の上申込書を一括して、お申込み下さい。

・1人1泊につき3,000円の申込金を添えて現金書留にて下記宛ご送金下さい。

申込書到着後宿泊券をお送りしますから当日必ずご持参下さい。差額については旅館、ホテルにて精算して下さい。

申込締切 9月14日(水)なお、お申込み後の取消、変更は9月22日までに連絡のあるものについては、実費(500円)差引きの上返金いたしますが、申込金を返金いたしかねますのでご了承下さい。

申込先 広島市紙屋町1丁目2番17号(〒730)

日本交通公社広島支店

日本鉄鋼協会} 秋季大会係
日本金属学会}

第14回分析化学講習会

主催 日本分析化学会中国四国支部 共催 日本鉄鋼協会中国四国支部, ほか

主 題 最新の分析技術と環境分析への応用

期 日 8月30日(火)・31日(水)

第1日 講義 10:00~16:00

第2日 講義 9:00~14:30

会 場 愛媛大学工学部 松山市文京町
(交通: 市内電車環状線 日赤前下車)

講義題目・講師

第1日

1. ガスクロマトグラフィーと問題点
都立大工 荒木 峻

2. 原子吸光分析と問題点
広大理 山本 勇彦

第2日

3. 統計的サンプリングデザインとデータ解析
京大工 小島 次雄

4. 将来の機器分析の展望
日本ジャーナルアッシュ 辻野 隆三
日立製 保田 和雄
東洋曹達 橋本 勉

展 示 会 各メーカーによる分析機器の展示と実演
(講習期間中)

会 費 (テキスト代を含む)
会員 (維持会員を含む) 12,000円
非会員 15,000円
テキストのみ (送料とも) 5,000円

申込方法 所定の様式により, 会費を添えてお申し込みください。なお, 講義と関連する環境分析について, 問題点があれば, その要旨を (詳細は別紙に) ご記入ください。

申 込 先 〒790 松山市文京町 愛媛大学工学部工業化学科 野崎 亨 (電話: 0899-41-7111)

申込締切 7月31日

注意 ①主催・共催学協会の維持会員の会社の方は会員として扱います。②講師その他にやむを得ない事情が生じた場合は, 一部変更があるかもしれませんのでご了承ください。③会費の払いもどしはいたしません。

CALL FOR PAPERS

INTERNATIONAL CONFERENCE ON
RESIDUALS, ADDITIVES
AND MATERIALS PROPERTIES

1. 日 時 1978年5月15日~17日

2. 場 所 London

3. 主 催 The National Physical Laboratory 他

4. 内容について (原文)

The Conference will consider the current scientific and technological standing of important phenomena which relate to the presence of minor constituents, the emphasis being on the assessment and prediction of active elements and on means of incorporating hard data into materials design. Semiconductor materials will be excluded. Contributions based on current research activity are invited. These should fall within the following subject matter:

i *Recycling of materials*: hazards to chemical composition of both ferrous and non-ferrous alloys as a result of tramp element accumulations; predicted long-term changes in content of particulate residual elements.

ii *Fabrication*: effect of residual impurities on hot shortness, liquation cracking, weld reheat cracking, etc.

iii *Performance in service*: nature and role of minor elements in creep cavitation, temper brittleness, intergranular fatigue, ductility troughs in non-ferrous materials, hydrogen occlusion, irradiation induced voids and swelling, etc.

iv *Improvement of properties*: remedial processes for damaging residuals; assessment of tolerance in bulk impurity levels; beneficial effects of additives in high-temperature oxidation, creep performance of nickel-base and austenitic steels, and in other properties.

論文の最終原稿は会議開始までに提出すること。

論文とディスカッションはまとめて出版される予定。

論文の提出を希望される方は詳細について下記の事務局にお問合せのうえ, 200語のアブストラクトを事務局あて直接お送り下さい。

5. 事務局: Dr. C. Lea

National Physical Laboratory
Teddington, Middlesex
TW11 0LW, England

正 誤 表

「鉄と鋼」63 (1977) 6, pp. 1016~1025

「メタノール溶液中の応力腐食割れにおよぼす低炭素鋼板冶金的因子の影響」

松 倉 亀 雄・佐 藤 一 昭

p. 1017 Table 1 中の酸素 (O) の分析値

Steel No.	誤	正
H	46	5
I	26	3
J	31	3
K	30	3